

このファイルについて

本稿は『WEB2.0の未来 ザ・シェアリングエコノミー』（伊藤穰一+デジタルガレージグループ 編著、インプレスR&D発行）に掲載している記事の本文テキストをクリエイティブ・コモンズ・ライセンスで配布するものです。



この作品はクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの下で公開しています

アプリケーションとデータフォーマットの 「鎖」を解き放つ

マイクロフォーマットの新たな可能性

タンテック・チェリック

テクノラティ チーフテクノロジスト

RSSなどを利用しなくても、XHTMLにメタデータを埋め込むことによって情報配信や収集を可能にする「マイクロフォーマット」。Web2.0のカギを握るともいわれるこの新たなフォーマット形式の推進に努めるタンテック・チェリック氏。「シンプルで保守的な規格」こそが、10年、20年先まで生き延びるとするのが持論だ。

ネットワークの発達とともに、これまでとはどのようなアプリケーションをネットワーク上で動作させるかが問題とされてきた。いわば、どういったコンテンツをネットワーク上で流通させるかが焦点となっていたのだ。ところがいまや、ネットワークとアプリケーションの問題は、アプリケーションとフォーマットの問題に取って代わられつつある。つまりコンテンツを、どういったフォーマットで流通させるかが議論の中心となっているわけだ。

ここでは、私が手がけている「マイクロフォーマット」という新たな規格が、インターネットにおけるデータフォーマットの問題で、どのような役割を果たしているのかを解説していきたい。

オープンソースの活用が ファイルフォーマットを自由にする

インターネット上でやり取りされるデータにはさまざまなフォーマットが存在しているが、最も重要なのは、きちん

と読み書きできるということだ。そこで「バンドル」という問題が出てくる。

たとえば、「マイクロソフト オフィス」で作成した文書ファイルを開くためにはワードやエクセル、パワーポイントといったアプリケーションが必要となる（もちろん、フリーのマイクロソフト オフィス互換ソフトであるOpenOffice*を使うという手はあるが）。このバンドル（結びつき）を、どうやって切り離すかということが、マイクロフォーマットの課題だといえ換えても良いだろう。

ウェブ上ではさまざまなデータがやり取りされているが、そのデータのフォーマットから、バンドルを切り離すことができれば、コンテンツに多様性が出てくるはずだし、経済的にも非常に効果も期待できるはずだ。

HTMLドキュメントの例を考えてほしい。ワードとHTMLは「リッチなドキュメントを作成できる」という点で同じだが、HTMLで作成されたコンテンツはワードのコンテンツよりはるかに多

OpenOffice : オープンソースによって開発されたワープロ、表計算、プレゼンソフト、データベースソフトなどの統合ソフトウェア。正式名称は「OpenOffice.org」。

サファリ：Mac OS Xに標準装備されているブラウザ。

メタデータ：データについての情報を記述したデータのこと。

マークアップ言語：文字の大きさや色などを指定するコンピュータ言語。最も有名なものにHTMLがある。

い。これは、HTMLが特定のアプリケーションに依存しておらず、「Internet Explorer (IE)」「Mozilla」「サファリ*」など、どのようなブラウザでも表示でき、どのようなテキストエディターやオーサリングプログラムでも作成できるという特徴を備えているからだ。

わざわざマイクロソフトの例をあげるまでもなく、これまではアプリケーションとデータフォーマットが完全にバンドルされていた。ところがYahoo!やGoogleがオープンソースの採用をはじめたことで、データフォーマットは解放されつつある。

Yahoo!では『Flickr』(下参照)と呼ばれる写真共有サービスを提供しているが、これには「hCard」(72ページに解説あり)と呼ばれるマイクロフォーマットの一部分が採用されている。ちなみにhCardとは、プロフィール情報(Flickrでは写真のプロフィール情報を記述するために利用されている)をメタデータ*として書き込むための規格で、単純にいうと特定の用途だけに使えるマークアップ言語*のようなものだ。

マイクロフォーマットを語るときに最も重要な点がある。それは、マイクロフォーマットは完全なオープンソースだということだ。したがって、マイクロフォーマットを採用しているFlickrで配信されるデータもオープンなものとなる。

現段階でYahoo!のやっていることがすべてオープンというわけではないが、Yahoo!のようにオープンソースを導入するメガポータルサイトがもっと増えていけば、やがてマイクロフォーマットは「標準」として認知されていくだろう。

ちなみに、プロフィール情報をやり取りするための標準規格として、IETF (Internet Engineering Task Force: インターネットの標準化団体)が開発したvCardと呼ばれるプロトコルが有名だがhCardで記述された情報は、簡単なコン

バーターを用意するだけでvCardに変換できる。つまり、ウェブ上に記載されたプロフィール情報を、ワンクリックするだけでパソコン上の住所録に組み込めるわけだ。マイクロフォーマットとは、正確で質の高い情報をネット上で交換するための手段だといっても良いだろう。

では、オープンソースであることの利点とはなんだろうか？

最大の特徴は、問題解決やエラー修正のためのプロセスが明確になっているということだ。ブラックボックス化されている部分がなく、採用にあたってのリスクも少ない。またユーザーの要望や動向を基に、よりシンプルなものを選択されるという特徴もある。

特定の問題を解決することだけにフォーカスした

もちろん、オープンソースなウェブブラウザであるMozillaにも、マイクロソフトのIEと競うように、さまざまなオプションが詰め込まれた時期はあった。そのためMozillaの後継ブラウザとして誕生したFirefoxでは、80パーセント以上のユーザーによる支持がなければ、新たな機能を導入しない原則があるという。

マイクロフォーマットの基本的な考え方も同じで、イノベーション(アプリケーションの新機軸)を必要最小限にとどめることにある。そもそも、「完璧な」フォーマットなどというものは、あまりに複雑すぎるがゆえに、往々にして誰も使わないことが多いものだ。

私は、マイクロソフトでIE開発に携わってきた経験もあって、現在、ウェブ技術の標準化を行う非営利団体「W3C*」のメンバーとして名を連ねているが、W3Cの標準化委員会がこれまで作成した勧告のうち、実に25パーセントが市場から見向きもされない。

W3C :WWW技術に関わりの深い企業、大学・研究所、個人などが集まって、1994年に発足。

ティム・バーナーズ・リー：イギリスのコンピュータ学者。ロンドン生まれ。World Wide Webのハイパーテキストシステムを考案・開発した。

その原因の一つになっているのが、ドキュメント量の多さだ。W3Cの勧告には、メンバー全員の意向を組み入れる必要があるため、ときに信じられないほど膨大なドキュメント量になる。多くの人にとって、これをすべて理解するのは、とても煩雑で気の遠くなるような作業だ。プリントアウトするだけでも大変なのに、W3Cが打ち出したフォーマットを使ってコンテンツを作るなど、とうてい無理な話なのかもしれない。

そこで、マイクロフォーマットを立ち上げるにあたって、まずは特定の問題を解決することにフォーカスした。WWWの仕組みを考案し、今日のインターネットの基礎を築いた人物として知られるティム・バーナーズ・リー博士*も、シンプルなパーツによってウェブを構成することが重要だと述べている。

20年後まで生き残るのは シンプルなフォーマットだけ

あらためて強調するが、マイクロフォーマットの原則は、インターネット上で公開されるコンテンツのうち、80パーセントをカバーできれば良いという点だ。たしかに、規格としてパーフェクトではないかもしれないが、残りの20パーセントをカバーする必要があるのかどうかは、実際に市場に出して見るまで分からないのだ。

もし、本当にニーズがあれば、追加すればいいだけのことだ。それもけっしてむずかしいことではない。我々は、ティム・バーナーズ・リー博士の理論に基づき、アプリケーションを「モジュラー」と呼ばれる細かなパーツに分割することで、複雑なものを単純化していくという方法を採用している。これによって、必要な機能の追加も容易にできるというわけだ。

このマイクロフォーマットの考え方

がけっして間違っていなかったことは、ここ数年の流れを見ても分かる。2004年にマイクロフォーマットが提唱された段階では、わずか数社がサポートしていたにすぎなかったが、わずか2年で驚くほどの普及を見せている。

もっとも最近の例では、Yahoo!の地域情報検索サービスがhCardを採用し、1500万件もの企業情報を、地域情報と結びつけて検索することが可能となっている。これは、既存の検索エンジンでは不可能だったことだ。

もちろん、新しいフォーマットの導入はリスクを伴うことだが、マイクロフォーマットの多くが既存の技術をベースに開発されているため、リスクを軽減できる点に注目してほしい。

また非常にシンプルなため、ユーザーが適応しやすいというメリットも生まれる。多くのユーザーが使うほど、問題発見の機会が増えるため、総合的なリスクは低下するはずだ。

規格がシンプルであるほど、10年20年先まで基本的な仕様が変わらず、同じフォーマットを使い続けられるという利点もあるだろう。将来性を考えても、インターネットの世界では、よりシンプルで保守的なフォーマットを使うべきなのだ。そして、特定の企業が独占しない、自由な開発環境も重要なのではないだろうか。